

[要約] 沖縄県における 1977-2015 年の間のハブ類咬症の症状ならびに治療の様式 7-受傷経験, 被咬回数, 牙痕数の影響

盛根信也・西村昌彦*・泉水由美子・糸数清正

[Summary] Symptoms and Treatments at the Bites of Viperid Snakes in Okinawa Prefecture from 1977 to 2015 (7) - Effects of Bite Experiences, Numbers of Attacks and Numbers of Fang Marks

Nobuya MORINE, Masahiko NISHIMURA*, Yumiko IZUMI and Kiyomasa ITOKAZU

全文掲載, All content : <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho51-55.htm>

Key words: ハブ, サキシマハブ, ヒメハブ, 咬症, 受傷経験, 被咬回数, 牙痕数, 症状, 治療, 沖縄県, Viperid snake, *Protobothrops*, *Ovophis*, Bite experience, Numbers of attacks and fang marks Symptom, Treatment, Okinawa Prefecture

[要約]

沖縄県における 1977-2015 年のハブ類咬症資料のうち, 主要加害種によるもの, ハブ 2730 件, サキシマハブ 1388 件, ヒメハブ 469 件を材料に用い, 過去の受傷回数, 被咬回数, 牙痕数別に, 症状と治療の各項目の件数を集計した. 各ヘビ種による咬症頻度の比較に際しては, 全咬症以外に, 既報の分析において受診医療機関や時代の間で差異が大きかった症状と治療の項目については, 咬症件数が 100 以上をみたま医療機関や時代別に集計した. 各項目は既報と同じ 2 群, ならびに一部では新たに設定した 2 群に分け件数を比較した.

以下では, 同様な傾向が複数例認められた場合を記す. 被咬回数が 2 以上において, ハブ咬症では抗毒素注射有りの頻度が, サキシマハブでは入院有りの頻度が, 高い傾向があった.

複数種における共通の傾向として, 過去の受傷回数について, 疼痛と出血で傾向が認められた 6 例のすべてにおいて, 回数が 1 以上より 0 のほうが症状有りの頻度が高い傾向があった. ハブとサキシマハブのそれぞれにおいて, 過去の受傷回数が多い方が, 抗毒素注射有りの頻度が高い傾向があり, また被咬回数が 2 以上のほうが, 抗毒素注射有り, 治療期間が 7 日以上で頻度が高い傾向があった.

牙痕数が多い場合には, 以下のような高頻度が多く認められた. 疼痛はハブとサキシマハブのそれぞれにおいて, 腫張は 3 種ともにおいて, 出血はハブとヒメハブに

において, 抗毒素注射有りは 3 種ともにおいて, 抗毒素使用量が 30 ml または 40 ml 以上はハブとヒメハブのそれぞれにおいて, 治療期間が 7 日または 14 日以上ならびに入院が有り入院期間が長期は 3 種ともにおいて, 機能障害有りはハブとサキシマハブのそれぞれにおいて, 高頻度が認められた. 前記の傾向のうちの一部については, 牙痕数 2 以上のみならず, 3 または 4 以上に設定した比較においても複数種において同様の傾向が認められた.

* 元 沖縄県衛生環境研究所職員